

9章 統計情報を探す

ここでは、レポートの「根拠」として使われる統計情報の探し方とその入手方法を説明します

統計の種類

	公的統計	業界統計	民間統計
作成者	政府や地方公共団体	社団法人など 各業界団体	企業、調査会社や シンクタンク、 新聞社など
特徴	作成が法律で規定されており継続性がある。信頼性が高い。作成までに時間がかかることもある	公的統計を補完 政府が作成しないような細かいデータが取得できる	世間が関心を持つ調査が多い。最近の動向に強いが、長期継続的なデータはあまりない
入手方法	大部分はインターネットで公表 過去分は紙媒体のみの場合も	一部インターネットで公開 紙媒体や詳細データは有料の場合がある	非常に高額で販売されることが多い 概要のみインターネット公開の場合もある

国内統計を探す

<データベース>

- e-Stat (政府統計の総合窓口) **Free**
<https://www.e-stat.go.jp/>
- 日経NEEDS **契約データベース**
- INDB大規模統計Finder **契約データベース**

<総合統計書> *契約データベースJapanKnowledge Lib からも利用可

- 日本統計年鑑 (クイックレファレンス) *最新版はウェブでも公開
- 日本国勢図会 (R@351@Ni3@1)
- 日本長期統計総覧 (R@351@Ni1@2-1~5)

海外統計を探す

<データベース>

- OECD iLibrary **契約データベース**
- UNdata **Free**
<https://data.un.org/>
日本語冊子版『**国際連合世界統計年鑑**』(クイックレファレンス)もあり
- Eurostat **Free**
<https://ec.europa.eu/eurostat>
日本語冊子版『**ヨーロッパ統計年鑑**』(R@353@Eu1@1)もあり

<総合統計書>

- マクミラン新編世界歴史統計 (R@350@Mi3@1-1~3)
- 世界国勢図会 (R@350@Se1@1)

統計情報入手のポイント

総合統計

『日本統計年鑑』などを使って、求める項目のある統計調査を確認する。分野別総合統計や、白書も有効。



データベース

見つかったら、その調査をデータベースやインターネットで確認



作成機関推測 論文検索

監督官庁や業界団体のサイトを確認
論文で引用されていないか確認

*必ずしも自分の求めるデータそのものがあるとは限りません。
工夫して使ってみましょう。

その他のお役立ちサイト

- 総務省統計局 <https://www.stat.go.jp/>
 - 〃 リンク集 <https://www.stat.go.jp/info/link/>
- 官公庁が発行する白書
<https://www.e-gov.go.jp/about-government/white-papers.html>
- 世論調査
 - ・ 内閣府大臣官房政府広報室
<https://survey.gov-online.go.jp/>
 - ・ 『アンケート調査年鑑』 (R@361.9@An1@1)
- リサーチ・ナビ 統計の調べ方 (国立国会図書館作成)
https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/cat2858/cat167/index.php
- 統計資料の探し方 (三田メディアセンター作成)
https://libguides.lib.keio.ac.jp/mit_statistics